



まちたんけん

赤ちゃんの駅



天満屋ハピータウンリブ総社店にある赤ちゃんの駅を、万地葵ちゃん(2か月)と一馬くん(2歳)を連れて利用する茜さん(門田)。「授乳の場所に困らなくなった。この駅が増えてとても助かります」と話してくれました。

授乳とおむつ交換の両方ができる施設「赤ちゃんの駅」を皆さんご存知ですか。乳幼児を連れてた親が、安心して外出できるように、授乳とおむつ替えスペースを備えた施設を赤ちゃんの駅として登録しています。

現在、市役所や山手保健センターといった公共施設をはじめ、商業施設、宿泊施設など市内では15か所を登録。目印は、赤ちゃんの駅と書かれたピンク色の看板やステッカーで、登録された施設の玄関や部屋の入口に掲示しています。

おむつの交換は、多目的トイレに交換台を設置している施設が多く、自由に利用できます。授乳については、市図書館のように専用スペースを設けている施設もありますが、託児室や待合室などの共用スペースを活用する施設もあります。利用するときは、各施設の職員やスタッフに声を掛けてください。

赤ちゃんの駅の場所や利用できる時間、連絡先などは、市ホームページに掲載しています。

問い合わせ 子ども課子育て支援係 ☎92-8268

絵本よんで!

『ちびゴリラのちびちび』
ルース・ボーンスタイン さく いわたみみやく ほるぷ出版



今日のテーマ 「大人にも絵本を」

絵本は子どもだけのものではありません。プレパパ・プレママに読んでほしい絵本もあります。左の本は、「みんながちびゴリラのちびちびを好きでした」というお話。すべての赤ちゃんは生まれた瞬間から、まるごと回りの大人に受け入れられ、愛されています。子育てに何か迷ったら、この本を読み返してみてください。初めて赤ちゃんを腕に抱いたときの気持ちを思い出さず、思い出さず。



輝いている人

命を守る住宅用火災警報器 まだの家庭は設置して

市民を火災から守ろうと、火災の発生を住人に知らせる「住宅用火災警報器」の普及と設置を呼び掛ける活動をしているのが住警器ガールズだ。

しっかりともののレッド、おとほけのブルー、かわいらしいイエローの3人組。キュートな衣装を身にまとい、「密かに天井で、不意に起こった火災でも、見つけて知らせ、守ってみせませすあなたの命」と、さっそうと登場する。

普段は女性消防団員として、1人暮らしの高齢者への防火指導やAEDを使った応急手当の指導をするなどして過ごしているが、ひとたび煙を察知すると変身。「火事です。火事です」と、大事に至る前に周囲に知らせるのが彼女たちの任務だ。

住宅用火災警報器の普及とPR活動に取り組む

住警器ガールズさん(小寺)

活動に取り組んでいる住警器マンとは親戚にあたるという。その住警器マンは、住警器ガールズの活躍に負けじと、さらに設置率を上げるため、近々パワーアップするらしい。消防長は「協力してしっかりPRしてほしい」と話す。

総社市の設置率は全世帯の約半分と、県内15市で2番目といまだに低い。4人の活躍で市内の設置率アップが期待されている。「ベスト5を目指してがんばります」と意気込む。

この1年、市内では火災で亡くなった人が例年より多かった。「自分たちの命を守るための警報器。まだの家庭は設置して」と強く訴えながらも、「いつも天井から見守っています。設置している人も電池のチェックを忘れずにね」とかわいく呼び掛ける。

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そじゃ編集室(企画課)までご一報ください。自薦・他薦は問いません。